

10  
預言者たち  
聖徒伝 144

# 「痛みを伴う 癒やし」の道」

ホセア書7～9章

アッシリア捕囚の預言

# アウトライン

## 0. イントロダクション

I. 癒しの御手による裁き 7章

II. イスラエルへの神の裁き 8章

III. アッシリア捕囚の惨劇 9章

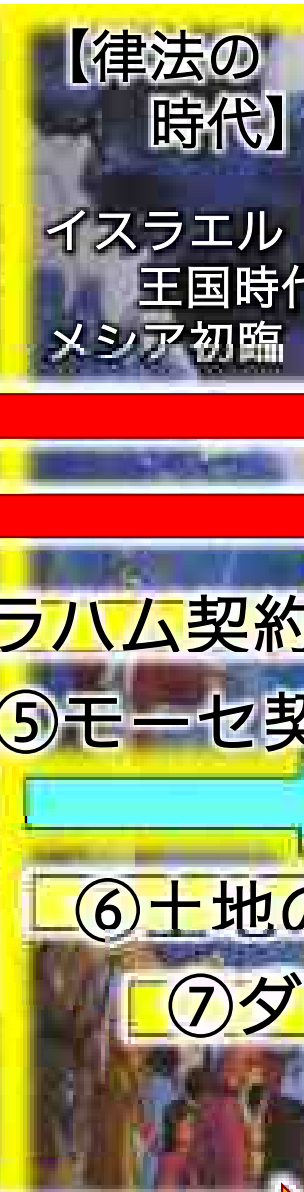
## IV. まとめと適用

偶像の物語から

真実を生きる者へ



サマリアの遺跡



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

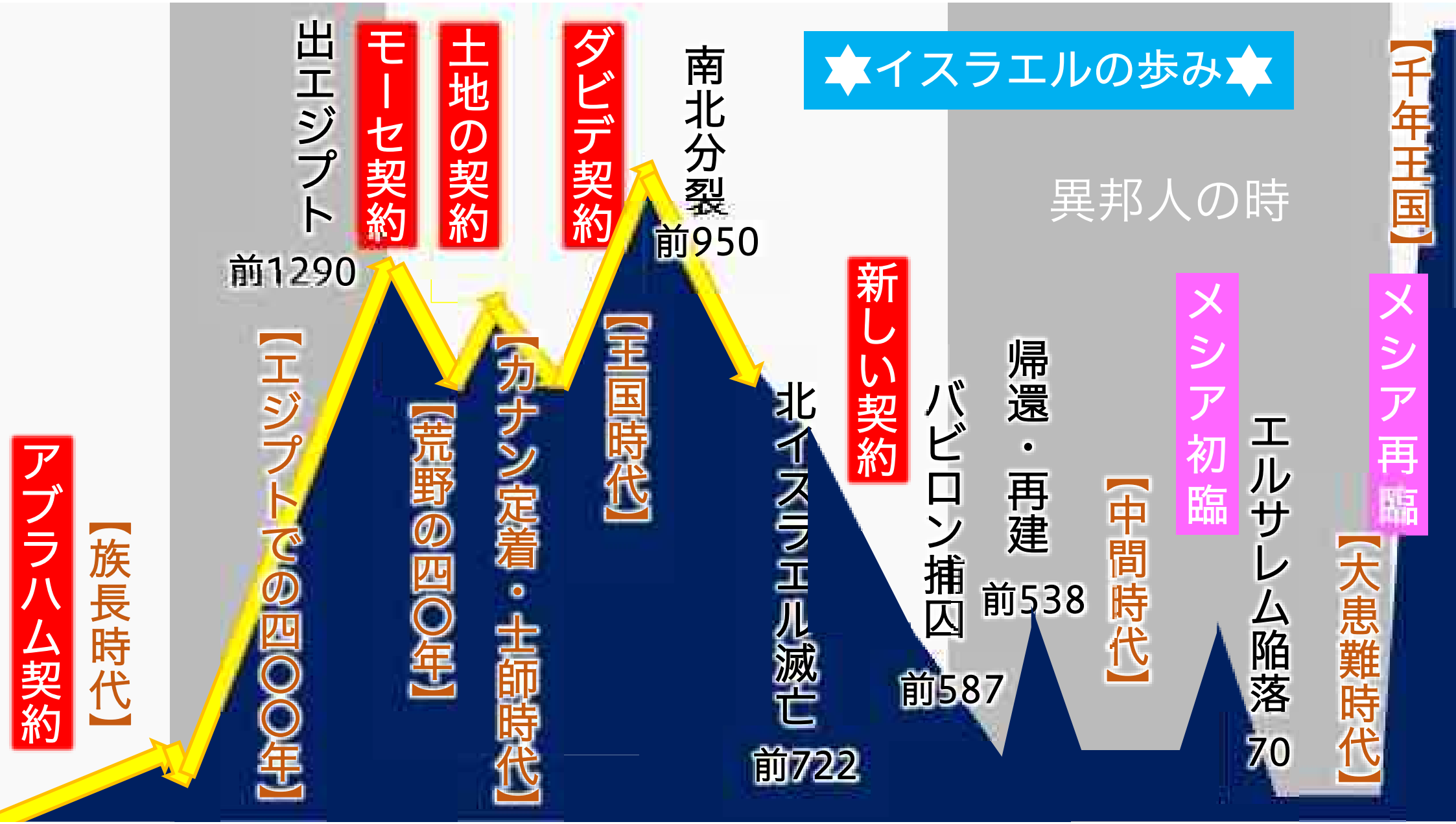
どの時代も  
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



## ホセア書とは？

■ **著者** … **ホセア** = “主は救う”  
父はベエリ = “我が満足”…父も信仰者。

■ **出身・活動の場** …北イスラエル

■ **時代** …ヤロブアム2世(北王国)～  
(南は、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ)

■ **背景** …偶像崇拝に染まり、裁きは間近に!!



ホセアは身をもって、主の哀しみと憐れみ、永遠の愛を伝えた



## 迫るアッシリアの脅威

- 古代から存在。BC10～7世紀の新アッシリア後期に世界帝国に。
- BC722には、北王国・イスラエルを滅ぼす。(アッシリア捕囚)  
→北王国の滅びは、ホセアの時代にやってくる!!

# ホセア書の構成

## ① 姦淫の女との結婚 (1~3章)

姦淫の女の不義と復縁、猶予期間へ

① 姦淫の罪

## ② イスラエルへの裁き (4~13章)

数々の姦淫の罪の告発。  
一時的な回復もあるが、  
終末まで根本的な状況は同じ。

② 懲らしめ・猶予

③ 終末の裁き

## ③ イスラエルの回復 (14章)

永遠に主の妻となる

④ 復縁・回復





# 【預言の内容は、神の目から見れば一つのこと】

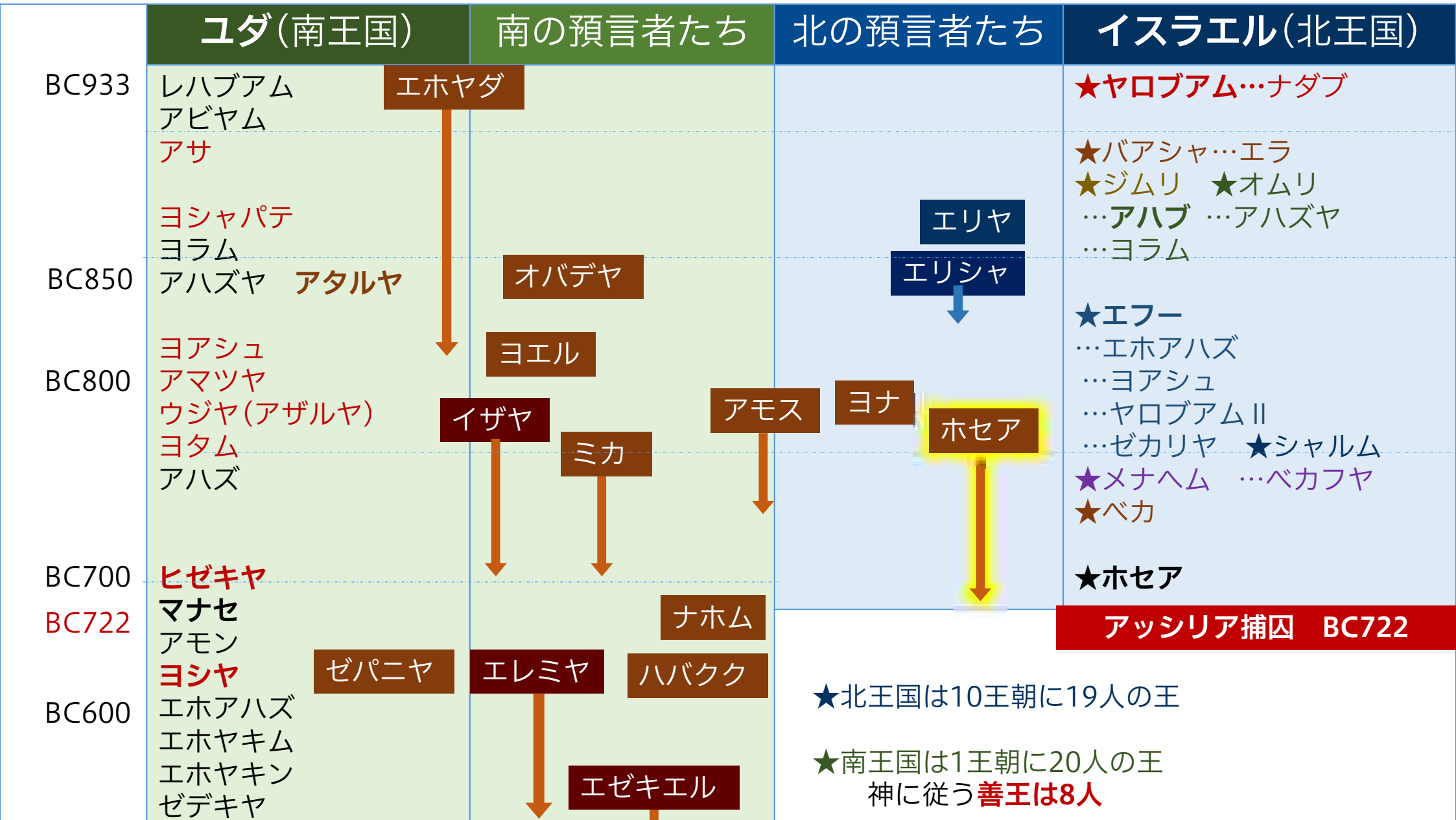




## 【預言が時系列で書かれていないのは、なぜ？】

- 直近の裁きも、終末の裁きも、混然としている。
- 明確に区分されていたら、将来の人々(私たち)は、自分には無関係だと読み飛ばすだろう。
- 区分されていないからこそその緊張感がある。将来の裁きは、私たちにも関係している。
- 心に刺さる言葉をこそ、しっかり覚えよう。きっとそこに、内住の聖霊が働かれている。





★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王  
神に従う善王は8人

北王国 イスラエル

南王国 ユダ

エリシャ

ホセア

【エフー王朝】

アモス

エフー

ベカ

20年

エホアハズ

アツシリア捕囚①

28年

ヨアシュ

17年

ヤロブアムⅡ

ゼカリヤ

6ヶ月

16年

41年

シャルル

1ヶ月

南北時代の最盛期

ヨナ

メナヘム

10年

混沌の時代

ヨアシュ ♡

アマツヤ ♡

40年

29年

ウジヤ ♡

ヨエル

52年

ヨタム

イザヤ



Ⅰ. 癒しの御手による裁き ホセア書7章

## 災い 癒やしの本質 ホセア書7:1

「わたしがイスラエルを癒やすとき\*、エフライムの咎、サマリアの悪はあらわになる。彼らが偽りを行い、盗人が押し入り、外では略奪隊が襲うからだ。」

\*罪人の癒やしの本質は、「神との断絶の回復」

■神が回復の手を差し伸べると、

かえって北王国の罪があらわにされる。

→主の救いの手を拒む、偽りの信仰者であるイスラエルには、神の裁きが下される。



## 災い 無自覚 ホセア書7:2~3

しかし、彼らは考えもしない。わたしが彼らのすべての悪を覚えていることを。今、彼らの悪行は彼らを取り囲んで、わたしの面前にある。

彼らは悪事によって王を、偽りによって首長たちを\*喜ばせる。

\*イスラエルの民も指導者も皆、悪の共犯者。

■神は人のすべての悪を覚えておられる。

→神の目を逃れうる悪などない。

→**認めたくないのが私たち罪人**



## 災い ふくらむ罪 ホセア書7:4~5

彼らはみな姦通する者。パンを焼くときの燃えるかまどのようだ。生地がこねられてから、ふくらむまでは、燃え立つことをやめている\*。

われわれの王の日\*に、首長たちは酒の熱\*で気分が悪くなり、王は嘲る者たちと手を握る。

\*低温に抑えたかまどで、パンを発酵させた。

■聖書で、パン種は、罪の象徴。

→罪を膨らませた先に、燃える神の裁きが!!

\*主の日。終末の最終的な裁きの時。

\*ワインも発酵食品。発酵の過程で熱を帯びる。





## 災い 闇の中で膨らむ罪 ホセア書7:6~7

彼らは心をかまどのようにして、陰謀を企てる。夜通し、パンを焼く者は眠る\*が、朝になると、かまどは燃え立つ火のように燃えるのだ。

彼らはみな、かまどのように熱くなって、自分をさばく者たちを食い尽くす。自分の王たちもみな倒れる。彼らのうちだれ一人、わたしを呼び求める者はいない\*。

\*夜の間、低温のかまどで発酵させ、朝に焼いた。

→裁きを目前にしているイスラエル

\*主に裁かれるのは、主を呼び求めない者たち。



## 災い 無自覚に進む滅び ホセア書7:8~9

エフライムは、もろもろの民の中に混じり込む\*。  
エフライムは、片面しか焼けていないパンだ。

他国人が彼の力を食い尽くしても、彼はそれに気づかない。白髪が生えても、彼はそれに気づかない。

\*アッシリアの強制移住政策により、異邦人と混ざりあったのが、北の末裔のサマリア人。

■ 中途半端な状態で衰えていくのが、サマリア。

→ 現存するサマリア人は、千人に満たない。



## 災い 愚かな鳩 ホセア書7:10~12

イスラエルの高慢はその顔に表れている。彼らは、自分たちの神、【主】に立ち返らず、このすべてがあっても、主を尋ね求めない。

エフライムは**愚かな鳩\***のようで、良識がない。エジプトを呼び求め、アッシリアに飛んで行く。

彼らが赴くとき、わたしは彼らの上に網を張り、空の鳥のように彼らを引き降ろす。彼らの群れの音を聞くとき、わたしは彼らを懲らしめる。

**\*聖書で、鳩は本来、従順さ、素直さの象徴。**

**→愚かな鳩は、立ち返るべき神が分からない。**



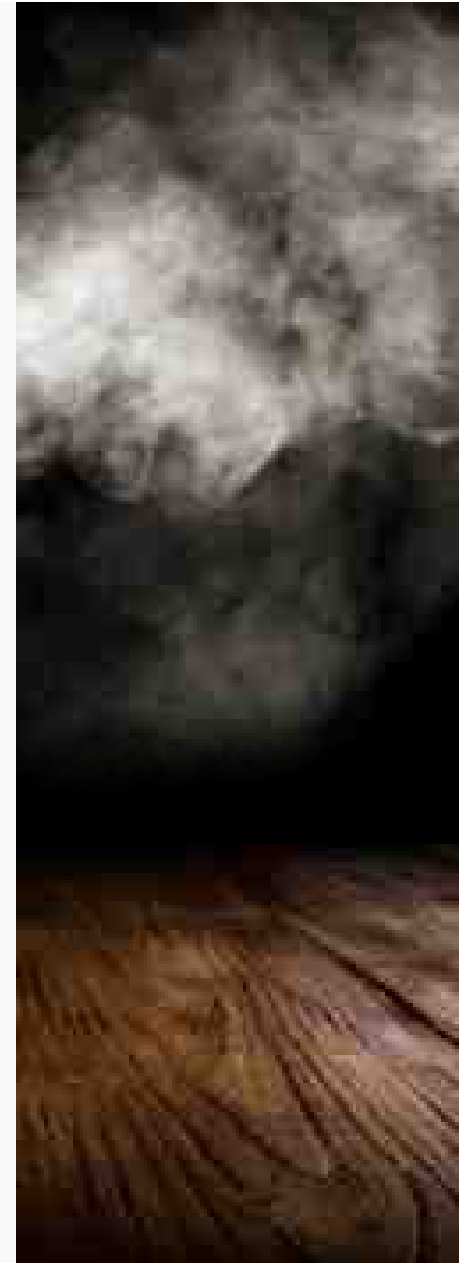
## 災い 嘆くだけの民 ホセア書7:13~14

わざわざいだ、彼らは。わたしから離れ去ったのだから。彼らは、踏みにじられるがよい。わたしに背いたのだから。わたしが贖い出そうとしているのに、彼らはわたしに向かってまやかしを言う。心からわたしに向かって叫ばずに、自分たちの床の上で泣きわめいている\*。穀物と新しいぶどう酒のためには群がって来る\*。しかし、わたしからは離れて行く。

\*悔い改めに至らず、己の不幸を嘆くだけ。

\*利己的な満足のためには、行動が早い。

■悔い改めとは、主に向き直り、一歩踏み出すこと。



## 災い 欺きの弓 ホセア書7:15～16

わたしが訓戒し、彼らの腕を強くしたのに、このわたしに対して悪事を企む。

彼らはいと高き方に立ち返らない。彼らは欺きの弓\*のようだ。彼らの首長たちは、ののしったために剣に倒れる。これはエジプトの地で、嘲りのもととなる\*。」

\*たるんだ弓(第三)、ねじれた弓(新共)

→見当違いな方向に飛ぶ、くるった弓

\*エジプトに助けを求め奴隷に身を落とした者も。





## II. イスラエルへの神の裁き

ホセア書8章

## 裁き 裁きの時 ホセア書8:1~2

「あなたの口に角笛を当てよ\*。鷲のようなもの\*が、【主】の宮の上にいる。彼らがわたしの契約を破り、わたしのおしえに背いたからだ。

彼らはわたしに向かって叫ぶ。『わが神よ、私たちイスラエルは、あなたを知っています』と。

\*神の裁きを告げ知らせる角笛。

\*裁きを告げる御使い(天使)?

「一羽の鷲が中天を飛びながら、大声でこう言うのを聞いた。『わざわざ、わざわざ、わざわざが来る。地上に住む者たちに』 黙示録 8:13」



知っているとは  
口先だけ!!



## 裁き 自ら招いた裁き ホセア書8:3～4

イスラエルは善を退けた\*。敵は彼らに追い迫る。彼らは王を立てたが、わたしによってではない。首長を立てたが、わたしは知らない。彼らは自分の銀や金で自分のために偶像を造った。ただ断ち切られるために。

\*神から来る善いものを拒絶した。

→最悪のものが、数百年後のメシアの拒絶。

■主を退け、無視し、断ち切ったがゆえに、主に退けられ、主に知らないと断ち切られる。



## 裁き 金の子牛 ホセア書8:5～6

サマリアよ、あなたの子牛\*は退けられる。わたしは彼らに向かって怒りを燃やす。いつになれば、彼らは罪のない者となれるのか。

それはイスラエルから出たもの。それは職人が造ったもので、神ではない。サマリアの子牛\*は粉々に砕かれる。

\*初代ヤロブアム王が、南北に設置し、

代々イスラエルが拝んできた金の子牛。

■偶像とは、人が作った神。都合のよい物語。



## 裁き 風の刈り取り ホセア書8:7~8

彼らは風を蒔いて、つむじ風を刈り取る\*。麦には穂が出ないので、麦粉を作れない。作れたとしても、他国人がこれを食い尽くす。

イスラエルは呑み込まれた。今や、彼らは国々の間にあって、だれにも喜ばれない器\*のようになった。

\*脱穀した麦を風に向かって放り投げて選別する。

中身の無い殻ばかりなら手元には残らない。

➡イスラエルは、極度の凶作に陥る。

\*食べ物がないのに皿を喜ぶ人がいるだろうか。



## 裁き 貢物が招く滅び ホセア書8:9～10

彼らは、ひとりぼっちの野ろば\*で、アッシリアへ上って行った。エフライムは愛を求めて贈り物をした。

彼らが諸国の民に物を贈っても、今、わたしはそれらを集める。彼らは、王や首長への貢ぎによって間もなく汚されることになる。

\*飼い主である神もいないイスラエル

■保護を求めて貢物を贈ったアッシリアによってイスラエルは侵略されることになる。



## 裁き 罪の祭壇 ホセア書8:11～12

エフライムは祭壇を増やして罪を犯すようになった。それらは彼にとって罪を犯すための祭壇\*となった。

わたしが彼のために、多くのおしえを書いても、彼らはこれを他国人のもののように\*見なす。

\*偶像のための祭壇

\*神の警告の預言も、他人事でしかない。



## 裁き エジプトへの回帰 ホセア書8:13~14

わたしへのささげ物のいけにえとして彼らが肉を  
献げて食べたとしても、【主】はこれを喜ばない。  
今、主は彼らの不義を覚え、その罪を罰する。彼  
らはエジプトに帰る\*。イスラエルは自分の造り  
主を忘れ、神殿をいくつも建てた。ユダは、城壁  
のある町々を増し加えた。しかし、わたしはその  
町々に火を放つ。火はその宮殿を焼き尽くす。」

\* 奴隷に戻る。エジプトの虜囚となった者もいた。

■ 神に、奴隷から救い出されたイスラエルは、  
神に背き、再び奴隷に身を落とすことになる。





### III. アッシリア捕囚の惨劇

ホセア書 9 章

サマリアの遺跡



## 捕囚 喜ぶな 楽しむな ホセア書9:1~2

イスラエルよ、喜ぶな。諸国の民のように楽しむな。あなたは自分の神に背いて姦淫したからだ。あなたはすべての麦打ち場で姦淫の報酬を愛した\*。

打ち場も踏み場も彼らを養わない。新しいぶどう酒も彼らを裏切る。

\*麦打ちは、風通しのよい高台で行われた。

➔麦打ち場に隣接して偶像の祭壇も築かれた。

\*作物を実らせ、恵みを与える神を拒んだ結果。

①主を喜ばない民から、喜びは取り去られる。



麦打ち場

## 捕囚 土地と礼拝の喪失 ホセア書9:3~4

彼らは ②【主】の地に住むことはない。エフライムはエジプトに帰り、また、アッシリアで汚れた物を食べる。彼らは ③【主】にぶどう酒を注がず、自分たちのいけにえで主を喜ばせない\*。彼らのパンは 喪中のパン\*のようで、これを食べる者はみな身を汚す。彼らのパンは自分のためだけ。【主】の宮に持ち込むことはできない。

②約束の地を追われる。

\*“魂・心のないパン”“偶像にささげたパン(新共)”

③主に礼拝をささげることができない



## 捕囚 逃げ場のない破壊 ホセア書9:5～6

例祭の日、【主】の祭りの日に、あなたがたは何をするのか\*。見よ。彼らが破壊を逃れても、エジプトが彼らを集め、メンフィス\*が彼らを葬る。彼らが慕う銀には、いらくさが、彼らの天幕には、あざみがはびこる。

\*神との喜びの交わりがイスラエルの祭りだが、主はおられず、祭りに何の意味もない。

\*エジプトの古都



## 捕囚 刑罰の日 ホセア書9:7

刑罰の日が来た。報復の日が来た\*。イスラエルに知らせよ。預言者は愚か者、霊の人は気のふれた者だ\*。これは、あなたの大きな不義のゆえ、激しい敵意のゆえである。

\*完了形が指すのは、神の裁きの確定。

\*“預言者は愚か者とされ、霊の人は狂う(新共)”

■ 預言者の言葉を退け続けた民は、  
裁きを目前にして、それでも耳を傾けない。



## 捕囚 ギブアの日 ホセア書9:8~9


エフライムの見張り\*は、私の神とともにいる。  
しかし預言者\*には、すべての道に罾が仕掛けられ、彼の神の家には憎しみがある。

彼らはギブアの日\*のように、心底まで墮落した。  
主は彼らの咎を心に留め、その罪を罰する。

\*預言者のこと。神の言葉を告げる預言者は、  
命を狙われ、真実の神に憎しみが向けられた

\*ギブアでのレビ人の妾への集団暴行殺人事件。

➔ギブアの民は聖絶、ベニヤミン族は壊滅寸前。  
(士師記19~21章)



回帰不能点を  
越えてしまった。  
免れ得ない  
イスラエルの裁き

## 捕囚 先祖の犯した罪 ホセア書9:10

「わたしはイスラエルを、荒野のぶどうのように見出し、あなたがたの先祖を、いちじくの木の新なりの実のように見ていた。バアル・ペオル\*にやって来たとき、彼らは恥ずべきもの\*に身を委ね、自分たちが愛しているもの\*と同じように、彼ら自身も忌まわしいものとなった。」

\*ヨルダン川東岸でモアブ人の女に誘惑され、  
姦淫し、2万4千人が主に打たれた。(民25章)

\*“モアブの偶像の神々” …霊的姦淫をした。



## 捕囚 飛び去る主の栄光 ホセア書9:11~12

エフライム。その栄光\*は鳥のように飛び去り、産むことも、身ごもることも、宿すこともない。

たとえ彼らが子どもを育てても、わたしは彼らに子を失わせ、人がいなくなるようにする。わたしが彼らを離れるとき、まことに、彼らにわざわいが来る。

\*主が与えた主の栄光。神の民の力の源泉。

■ 出エジプト以来、共におられた神の臨在が去る。

→ 北はアッシリア捕囚。南はバビロン捕囚。

■ 神が不在の神の民は、死んだも同然。





## 捕囚 岩場の屠り場 ホセア書9:13～14

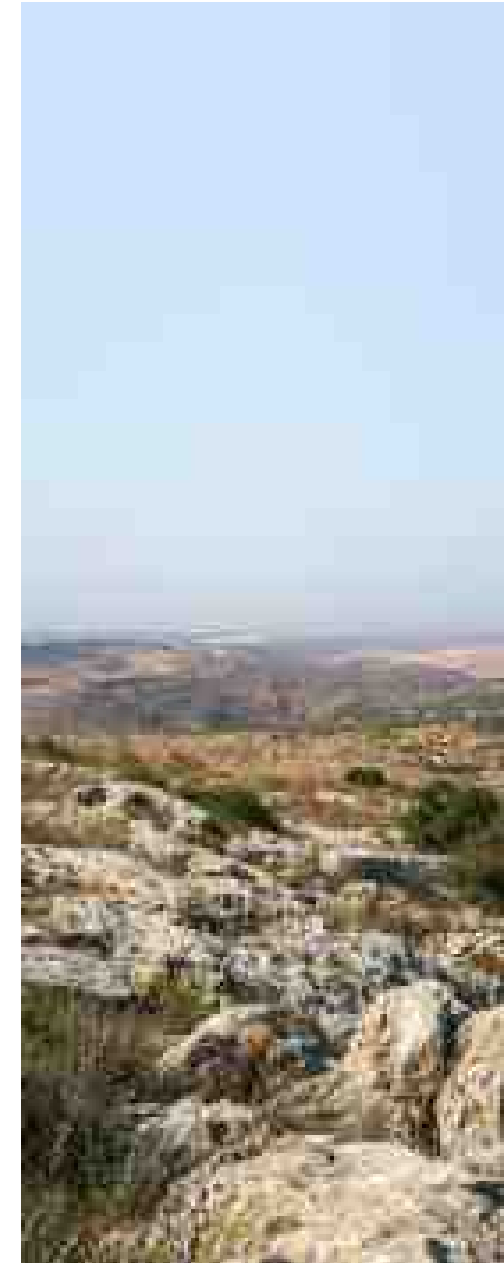
エフライムは、わたしが見たところ、牧場に植えられたツロ\*のようであった。しかし今や、エフライムはその子らを屠り場\*に連れ出さなければならない。」

【主】よ、彼らに与えてください。あなたは何をお与えになりますか。彼らに与えてください。死産の胎を、涸れた乳房を\*。

\*“切り出された石” …エフライムの山地の光景

\*犠牲の動物音屠り場が、岩場に設けられていた。

\*主を離れた民に、存在価値はない。



## 捕囚 ギルガル ホセア書9:15

「彼らのすべての悪はギルガル\*にある。わたしはそこで彼らを憎んだのだ。彼らの悪い行いのゆえに、わたしは彼らをわたしの宮から追い出し、もはや彼らを愛さない。その首長たちはみな頑迷な者だ。

\*ヨルダン川東岸の主要な町。

最も強く異邦人の偶像礼拝の影響にさらされた。  
北王国の時代、北方のアラムが度々支配。

➡ギルガルもアッシリア捕囚の対象に!!



## 捕囚 民の離散 ホセア書9:16~17

「エフライムは打たれ、その根は枯れて、実も結ばない。たとえ子を産んでも、わたしはその胎の実である、いとし子を殺す。」 私の神は彼らを退ける。彼らが神に聞き従わなかったからだ。彼らは国々の間で、さすらい人となる。

- エフライム族を代表とする北の10部族は、アッシリアの強制移住政策で壊滅的な状況に!!
  - ➔ アッシリア捕囚以降、全イスラエル民族の主流は、南のユダが担っていく。





## IV. まとめと適用

偶像の物語から真実を生きる者へ

荒野の朝日

## 歴史から見る、北王国・イスラエルの末路

- BC722年。アッシリアによりサマリアは陥落。  
残った民は捕囚とされ、多くは外国へ強制移住された。  
→北王国には、異邦人が強制移住させられてきた。
- 異邦人との混血が進んだ、その末裔が**サマリア人**。  
→イエスの時代には、異邦人同様に見られ、蔑まれていた。
- 現在のパレスチナ西岸地域に残る**サマリア人**は、千人弱。  
→独自のトーラーを持ち、今もサマリアの山で祭儀を行う。
- **北の十部族**は消滅していない。分裂前、南北時代、捕囚時にも南王国に逃れてきた人々が少なからずいた。

## イスラエルは、見捨てられた？ 救われた？

■ 主は、厳しい裁き、懲らしめをイスラエルに下されたが、  
民族としてのイスラエルは、今もなお見捨てられてはいない。

➔ 始祖アブラハムへの永遠の約束のゆえに。

■ 一方で、**イスラエルの個々人の救いは、個々の信仰による。**

主を信じた者は、永遠に救われた。拒み通した者は、永遠に滅んだ。

■ 捕囚の厳しい裁きを経て、主に立ち返って救われた者もいただろう。

■ 世の終わりの大患難時代にも、ユダヤ人も異邦人も突きつけられる。  
再臨の主イエスを信じるのか。拒むのか。➔ 永遠の運命を決する。

# 物語が世界を滅ぼす？

## 「ストーリーが世界を滅ぼす by ジョナサン・ゴットシャル」

■人は、誰もが、自分の物語に他者をなびかせようとしている  
誰かの何かの物語になびいている。

例) 戦争のプロパガンダ、陰謀論、企業広告、ゴシップ・噂話…

■先住民社会で尊敬されるのは、語りべ。文明社会でも変わらない。

例) 俳優、アイドル、映画監督、GAFAM、youtuber…。

■ネット社会において、物語は、ますます人の心の多くを占めている。  
膨大なデータを収集、分析、活用。人々の求める物語を送る発信者。

→気に入った物語にのめり込むほど、他者との分断は深まる。

# 偶像礼拝とは、人が造った魅惑的な物語

■ 偶像「ペセル(ヘブル語)・アイドル(英語)」とは、人が欲望に合わせて造った物語の役柄。

例) 性的な豊穡の神、勇ましい軍神…。

物語に魅力があるの♡

■ 偶像礼拝とは、人が造った、自分の気に入る物語。

■ 人の欲望の数だけ、偶像はある。

ありのままにいいと、欲望を権利として主張しあう、物語があふれた現代は、究極的な偶像礼拝の時代。

■ クリスチャンすら、自分に都合のよい神を造り上げ簡単に捕らわれてしまう。→教会の混乱の根本原因。



偶像礼拝は  
極めて  
現代的な課題



## 聖書こそが、真実の物語

■ 聖書は、人の造った物語ではない。人には語りようがない。聖書に人を魅了する物語はない。

■ 罪人は滅びゆくだけ。人に正しいことをやり通す力はない。世界は変えられない。誰もヒーローには成り得ない。

■ 聖書にヒーローはいない。メシアすら、人々にあざけられ、最悪の死を遂げられた。今もなお、メシアの名は貶められたままだ。  
例) 失敗したメシアに代わってきた、故・文鮮明(統一協会)

■ 聖書ほど、人の罪を赤裸々に記した書物はない。それが、時代を超えて読み継がれている。➡まぎれもない奇跡。

## 真実の物語に立ち返ろう

■ 滅ぶがままの罪人だった私のために、子なる神イエス・キリストは、嘲りの内に十字架にかけられ、死んで葬られて辱められた。しかし、死を打ち破って、三日目に栄光の姿で復活された。

→ この**福音**を信じた者は、ただ恵みによって永遠に救われる。

■ 主イエスは再び来られ、世を裁き、真実に平和な世界を回復される。信じたすべての者に、栄光の体が与えられ、神の子、主イエスの兄弟姉妹、共同統治者として、永遠に喜びの内を生きる。

■ 福音を信じ、真実の物語を揺るがぬ希望を持って歩む者とされよう。人のどんな物語も及ばない、永遠の恵みと平安の道がここにある。

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。

わたしは、まぎれもない罪人です。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

人の造った物語に、どっぷりと浸かっていた私がいましたが、

主が、私を、真実に生きる者へと変えてくださいました。

預言者が告げた、世の終わりの時はやってきます。

永遠の祝福の道を告げ知らせる者として、ここから遣わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」